

# パソコンで新聞を作ってみよう！

パソコンで新聞を作るソフトとして、朝刊太郎という新聞制作ソフトを紹介します。朝刊太郎は無料で使えるフリーソフトですが、非常によくできたソフトです。学級新聞や会報などで幅広く使われています。

## <もくじ>

### 1 朝刊太郎の導入

- 1-1 朝刊太郎のインストール
- 1-2 朝刊太郎を起動
- 1-3 朝刊太郎の画面について

### 2 事前設定

- 2-1 紙面設定
- 2-2 ノンブルの設定
- 2-3 紙面ファイルの保存

### 3 素材の準備

- 3-1 記事を書く
- 3-2 画像を取り込む
- 3-3 画像を編集する

### 4 紙面レイアウト

- 4-1 紙面レイアウトを考える

### 5 見出し

- 5-1 見出しを作る
- 5-2 見出しを地紋にする
- 5-3 題字を作る

### 6 大組

- 6-1 題字を置く
- 6-2 罫線を引く
- 6-3 素材を外す
- 6-4 移動
- 6-5 素材を置く（その2）
- 6-6 記事を流す
- 6-7 記事を折る
- 6-8 便利な仮空白

### 7 リード

- 7-1 リードを作る
- 7-2 リードの編集

### 8 箱組

- 8-1 箱組を作る
- 8-2 箱組へ素材の取込み
- 8-3 箱の設定
- 8-4 箱組で素材を配置する

### 9 仕上げ

- 9-1 素材の配置（その3）
- 9-2 段罫を削除する
- 9-3 印刷する

# 1 朝刊太郎の導入

## 1-1 朝刊太郎のインストール

### 1) ダウンロード

インターネットのサイト「朝刊太郎の置き場」(<http://hp.vector.co.jp/authors/VA020605/>) から朝刊太郎をダウンロードします。



2010年12月現在、ベータ版の「Ver0.95 β 32」と正式公開版の「Ver0.945」が公開されています。本マニュアルでは箱組機能や偏平文字が使える高度な編集ができるベータ版に沿って説明します(マニュアル内の画像は、一部旧バージョンのものが含まれておりますがご了承ください)。

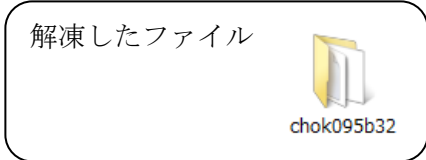
ベータ版は WindowsXP 以降の OS に対応しています。



最新β版 (Ver0.95 β 32) の「ダウンロード」をクリックしてファイルを PC に保存します。

### 2) LZH ファイルの解凍

ダウンロードした「chok095b32.zip」ファイルは ZIP という形式で圧縮されているので、圧縮ファイルを解凍します。



### 3) インストール

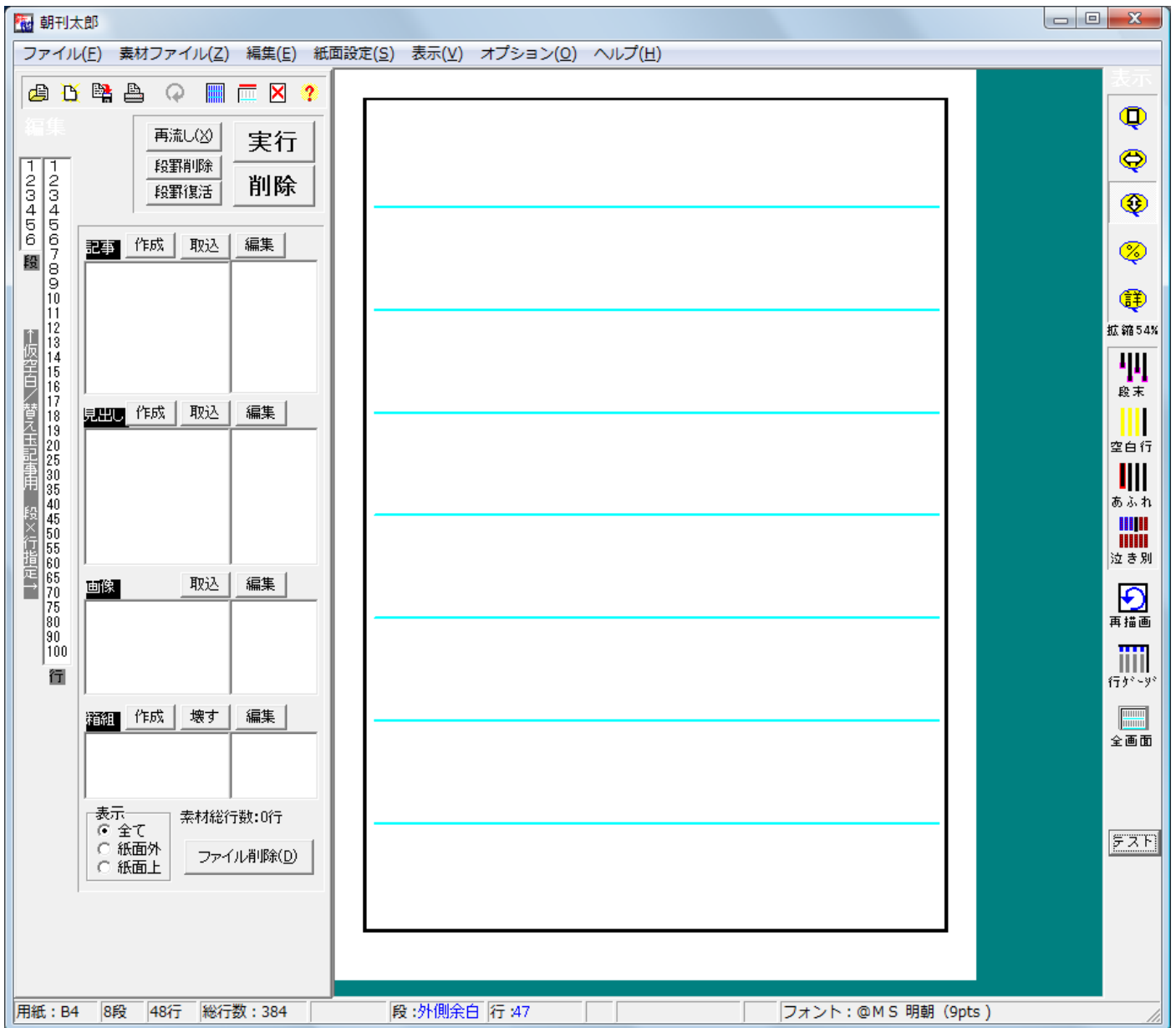
分かり易くするため、「朝刊太郎」専用のフォルダを作ってその中に解凍したファイルを保存します。

例) C:\¥朝刊太郎  
 「朝刊太郎」フォルダに解凍したすべてのファイル (chokan.exe、chokan.chm、A2 紙面.dat、A3 紙面.dat、A4 紙面.dat、B4 紙面.dat、はじめに.txt) を保存します。

これでインストール完了です。

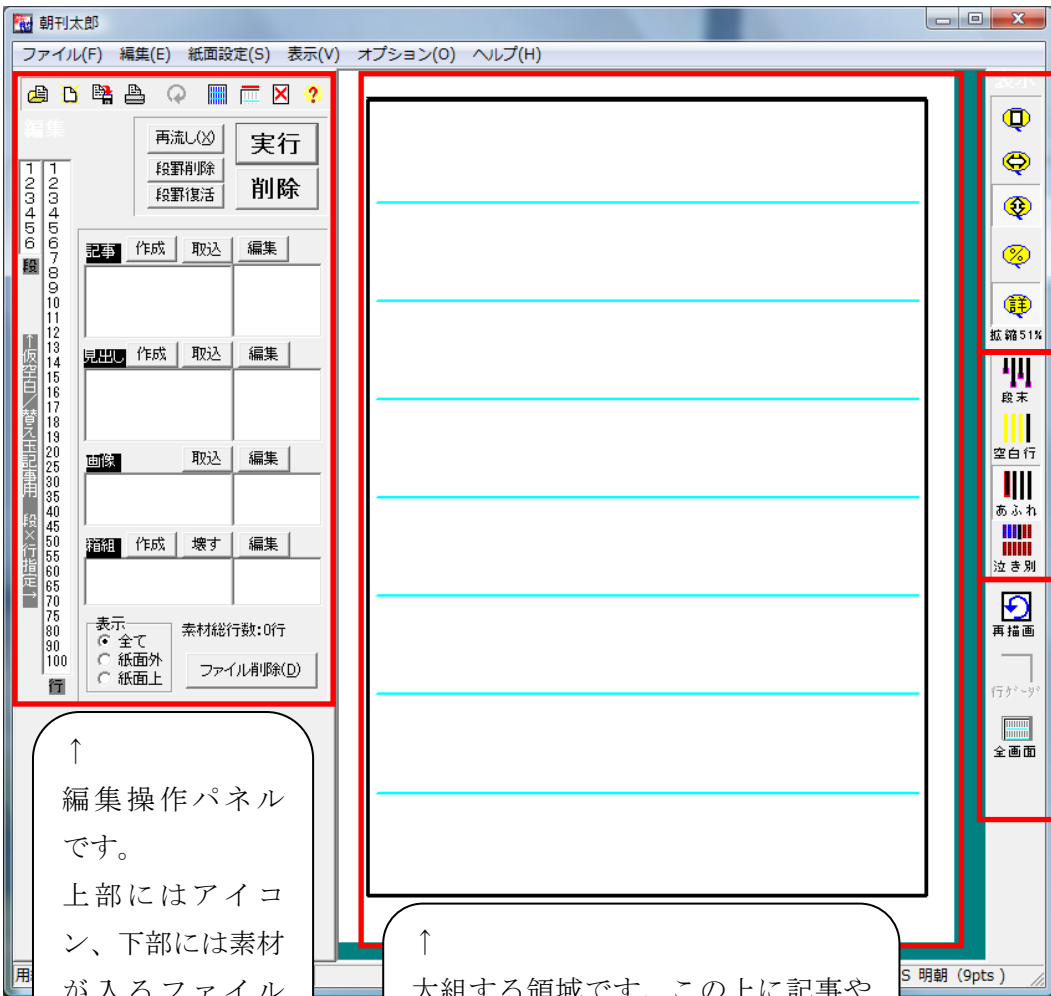
1-2 朝刊太郎を起動

「chokan.exe」をダブルクリックして実行すると朝刊太郎が起動します。デスクトップに「chokan.exe」のショートカットを作っておくと、次回から起動しやすいでしょう。



朝刊太郎の初期画面です。

1-3 朝刊太郎の画面について



←紙面表示倍率アイコンです。  
原寸表示、左右合わせなど、紙面の表示倍率を設定するアイコンです。

←補助表示アイコンです。  
段末や空白行、あふれ、泣き別れを色表示する際に押します。

←その他アイコンです。  
再描画、行ゲージ表示、全画面表示ができます。

↑  
編集操作パネルです。  
上部にはアイコン、下部には素材が入るファイルボックスがあります。

↑  
大組する領域です。この上に記事や見出しなどをレイアウトして、新聞を作ります。

<編集操作パネルのアイコン説明>



- 紙面ファイルを開く
- 紙面の新規作成
- 紙面の上書き保存
- 紙面の印刷
- 直前操作の取り消し
- 紙面の諸設定
- ヘッダの編集・削除
- 紙面の全素材削除
- ヘルプを開く

<実行ボタンなどの説明>



- ・実行 → 流す、置くなどのコマンドを実行します。
- ・削除 → 紙面レイアウト上から素材を外します。
- ・再流し → 記事を流し直します。
- ・段罫削除 → 段罫を削除します。
- ・段罫復活 → 削除した段罫を復活します。

<素材ファイルボックス>



記事、見出し、画像、箱組の素材が表示されます。  
 「作成」ボタンで各素材の作成、「取込」ボタンでファイルからの取込みができます。  
 「編集」ボタンで素材を編集します。

「表示」のラジオボタンで、ファイルボックスに表示する素材を切り替えることができます。

- ・全て → すべての素材が表示されます。
- ・紙面外 → まだ紙面にレイアウトされていない素材が青文字で表示されます。
- ・紙面上 → 紙面にレイアウトされている素材が灰色文字で表示されます。

<仮空白と替え玉記事作成ボックス>



「段」と「行」を指定して大組に配置すると「仮空白」、  
 「行」のみを指定して大組に配置すると「替え玉記事」が作成できます。

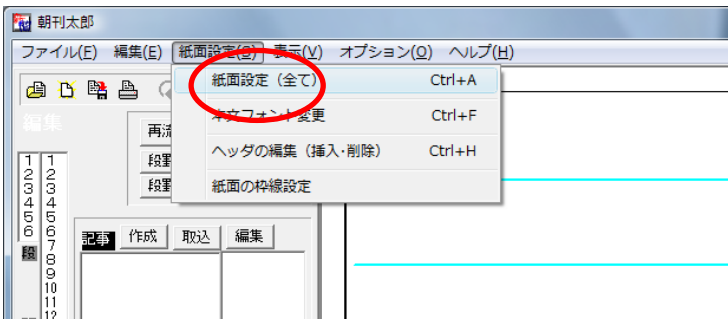
<メモ>

- ・仮空白とは、後から見出しや箱組みなどに変更できる仮のスペースです。見出しや写真などの素材がそろっていない時などに、とりあえずのスペースを取っておきます。
- ・替え玉記事とは、記事がそろっていない時に使うダミーの記事です。後から本物の記事に差し替えます。

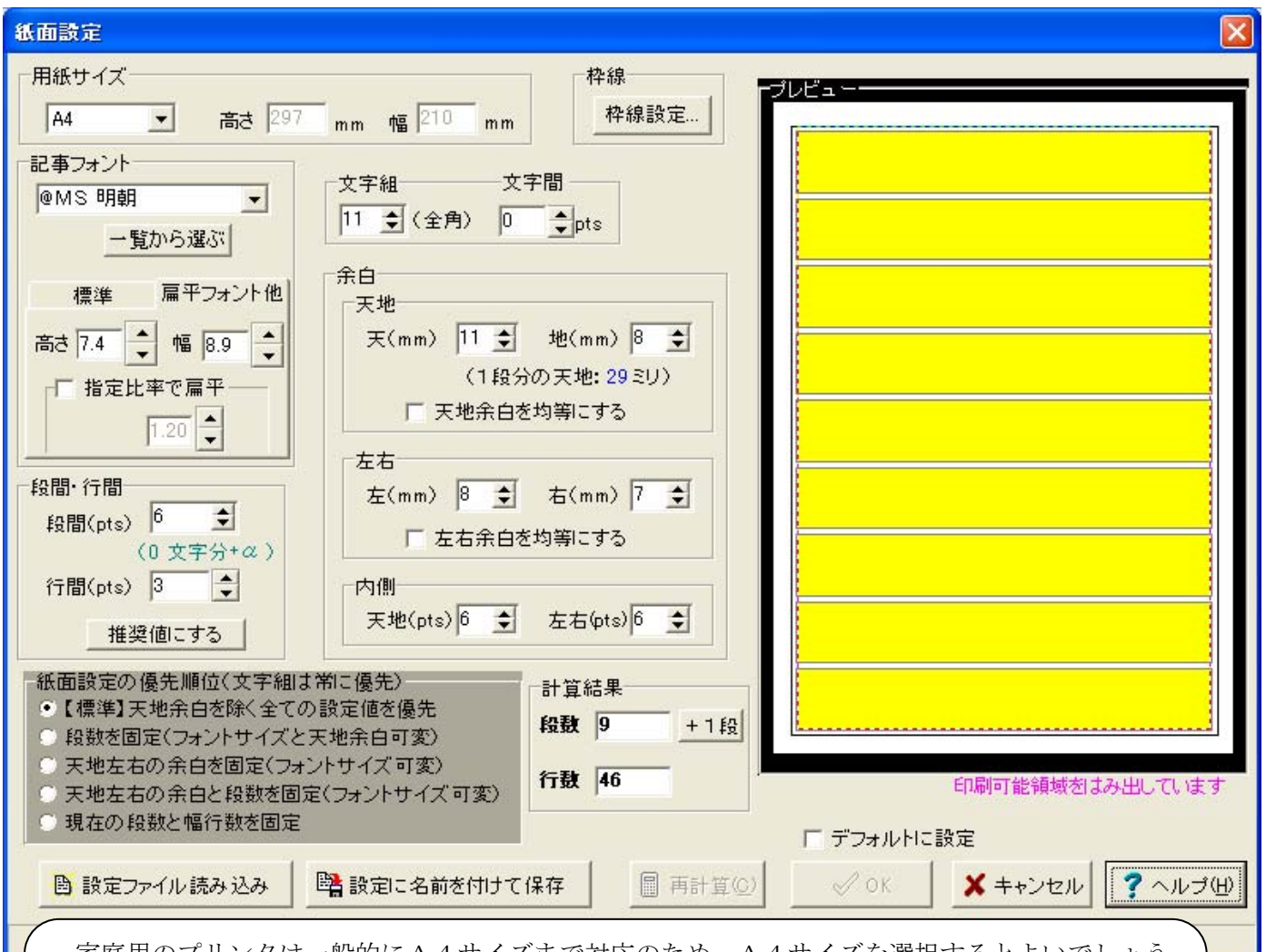
## 2 事前設定

### 2-1 紙面設定

これから作る新聞紙面の用紙サイズ、行数、段数などの基本的な設定をします。



「紙面設定」→「紙面設定 (全て)」から紙面設定画面を開いて段数、用紙サイズなど決めます。「設定ファイル読み込み」から、あらかじめ設定してあるA2、A3、A4、B4サイズのサンプル紙面を呼び出すこともできます。

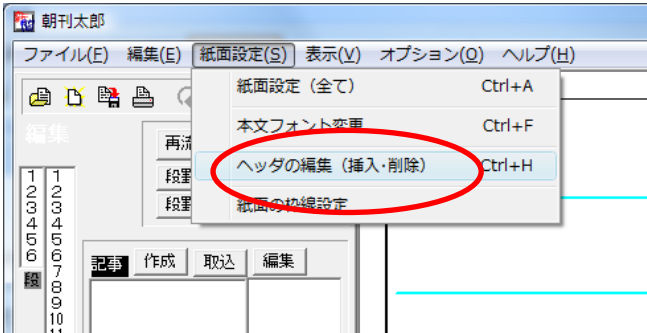


家庭用のプリンタは一般的にA4サイズまで対応のため、A4サイズを選択するとよいでしょう。A4より大きい紙面を作りたい場合は、A4サイズで文字を小さめに作っておき、印刷した後で拡大コピーするなどの工夫が必要です。

上の例はA4サイズで11字詰め、横46行、縦9段の紙面設定です。

## 2-2 ノンブルの設定

ノンブル（新聞の名前、発行年月日、頁などを載せる欄外部）の設定をします。



ノンブルの設定は「紙面設定」→「ヘッダの編集 (挿入・削除)」から行います。朝刊太郎ではノンブルのことをヘッダと呼んでいます。



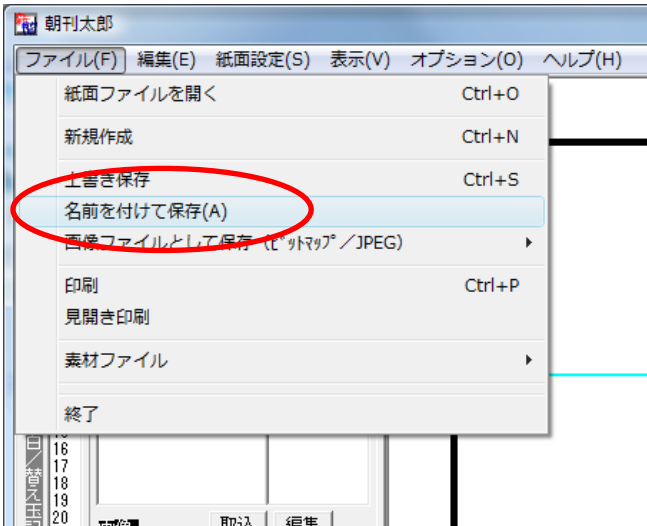
文字列 1～5 を使ってノンブルを作ります。

ここでは文字列 1～4 を使って、頁、号数、新聞名、発行日を表示しました。

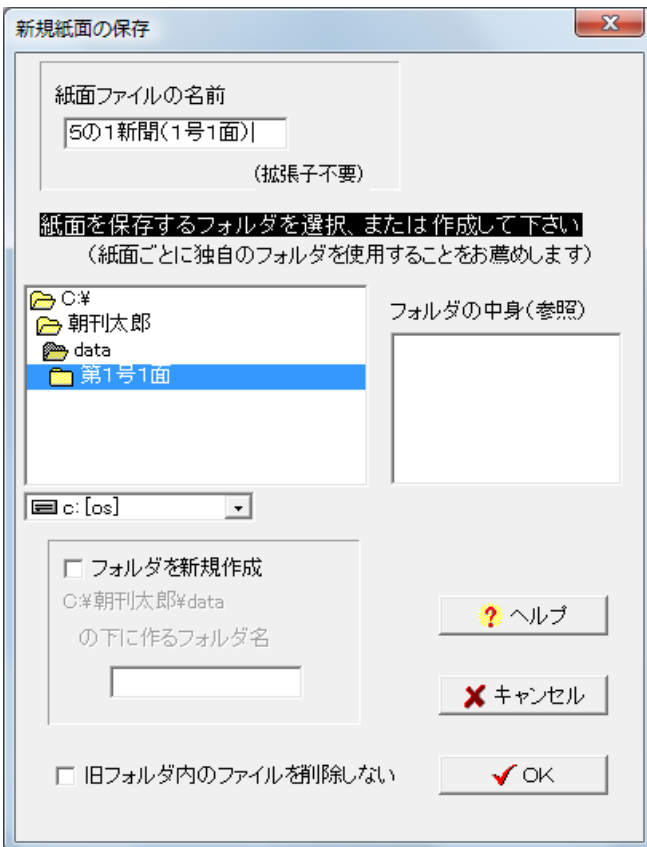
上部のプレビューで配置のバランスを確認、調整ができます。

## 2-3 紙面ファイルの保存

ここまで設定した内容を、一旦保存しておきましょう。



「ファイル」→「名前を付けて保存」で紙面を保存します。



紙面ファイルの名前を入力して、保存します。

ここでは「C:\朝刊太郎\data」フォルダ配下に「第1号1面」と名前を付けたフォルダを作成して、その中に紙面ファイル「5の1新聞(1号1面)」を保存しました。

これから作成する見出しなどの素材は、紙面ファイルと同じ「第1号1面」フォルダ配下に自動的に保存されます。

<メモ>

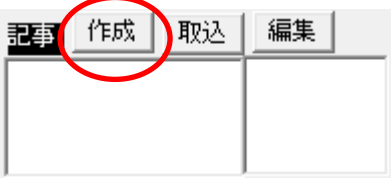
ここで保存する「紙面ファイル」は、紙面設定や素材の配置情報を管理するファイル(拡張子 shm)です。これから作成していく素材(記事、画像、見出し)は作成する毎に、それぞれ別々のファイルとなって作られます。紙面を保存するためには、紙面ファイルと素材のファイルをセットにして1つのフォルダに入れておく必要があります。1カ面につき1つのフォルダで管理するのがおすすめです。



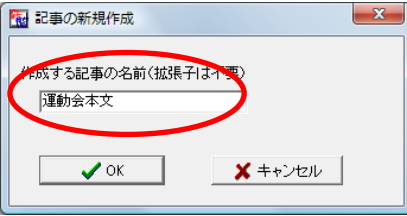
### 3 素材の準備

#### 3-1 記事を書く

記事を書きましょう。朝刊太郎の記事エディタは、書きながら行数が把握しやすいので便利です。



記事の「作成」ボタンを押します。



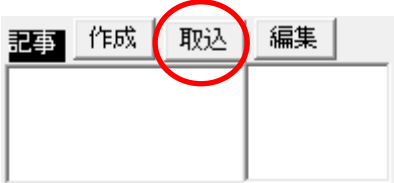
これから書く記事の名前を付けます。



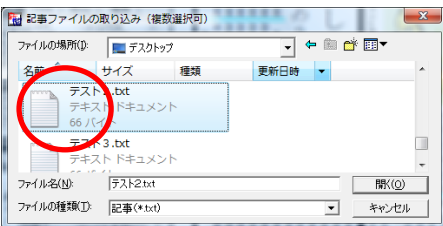
朝刊太郎の専用記事エディタが起動するので、記事を書きます。

<メモ>

あらかじめ記事をデスクトップ等にテキスト (txt) 形式で保存しておき、取込むこともできます。



記事の「取込」ボタンを押します。



取り込む記事を選択します。一度に複数の記事の選択もできます。



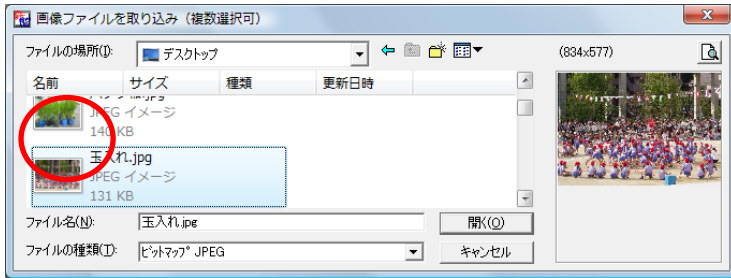
記事がファイルボックス上に表示されます。  
※取り込んだ記事は、紙面フォルダにコピーされます。

### 3-2 画像を取り込む

デジカメで撮影した写真や画像を、デスクトップ等に b m p (ビットマップ) ファイルか j p g (JPEG) ファイルで保存しておきます。



画像の「取込」ボタンを押します。



取り込む画像を選択します。一度に複数の画像の選択もできます。

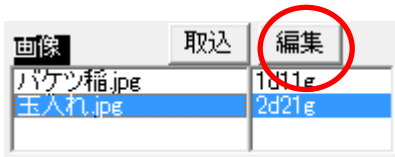


画像がファイルボックス上に表示されます。  
※取り込んだ画像は、紙面フォルダにコピーされます。

## 3-3 画像を編集する

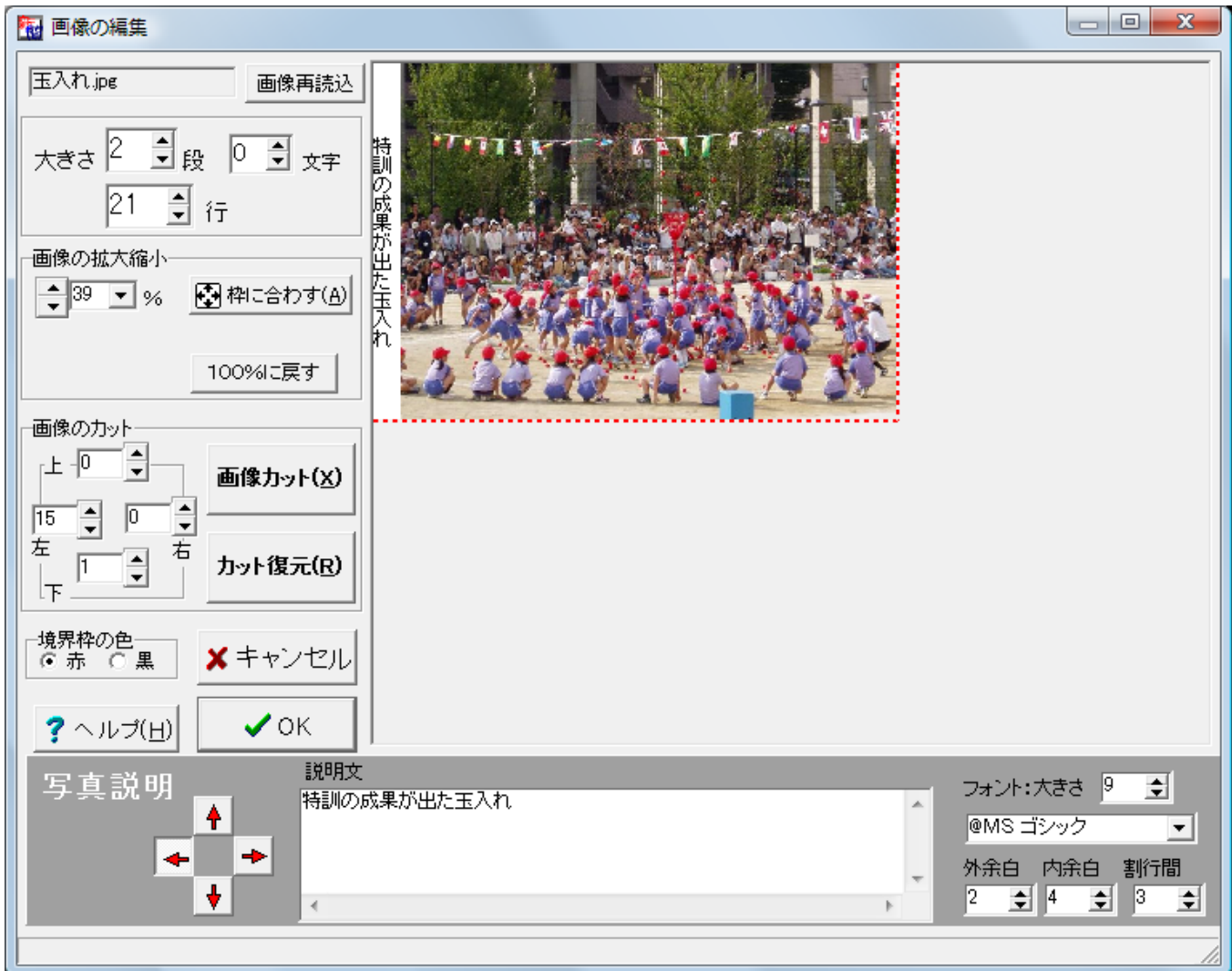
取り込んだ画像を編集します。

画像を選択して「編集」ボタンを押します。



画像編集画面が起動します。

写真の大きさや、拡大縮小、トリミング範囲を設定します。



写真説明を付ける場合は、説明文の欄に入力します。

矢印ボタンで写真説明を表示する位置を設定します。

<メモ>

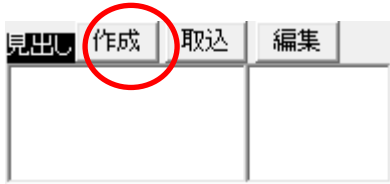
画像を編集すると紙面フォルダに「画像ファイル名.phb」ファイルが作成されます。このファイルにはトリミングや写真説明の情報が入っています。ファイルボックスには表示されません。



## 5 見出し

## 5-1 見出しを作る

アタマ（トップ記事）の記事の見出しを作ります。運動会の記事です。内容が一目で分かるような見出しを作りたいです。



見出しの「作成」ボタンを押します。

見出しの作成・編集

見出し全体の設定

天地 3 段 0 文字  
幅 6 行

見出し名 運動会みだし1

見出し全体の属性  
 縦  横  
 自動判別  
 画面変形(縦/横)  
 常に自動調整  自動ちどり  
 縮小表示 100%表示

OK  
キャンセル  
ヘルプ(?)

見出し文1 見出し文2 見出し文3 見出し文4 見出し文5

気合十分、欠席ゼロ

向き  
 タテ  ヨコ  
 かぶせ

見出し文の効果設定

文字

文字サイズ 全体サイズ  
26  
3  
28

色/画像選択

背景

背景のかけ方  
 全部  右半分  
 左半分  楕円

枠線

枠線を付ける  1

空き  
行間 7 文頭末 2

気合十分、欠席ゼロ  
玉入れ、徒競走がんばる

見出し作成画面が起動します。  
まずは見出しのサイズを決めます。

見出しは「見出し文1」～「見出し文5」までのタブを切り替えて入力します。

画面の例では

- ・「見出し文1」に主見出し「気合十分、欠席ゼロ」
- ・「見出し文2」に脇見出し「玉入れ、徒競走がんばる」と入力しています。

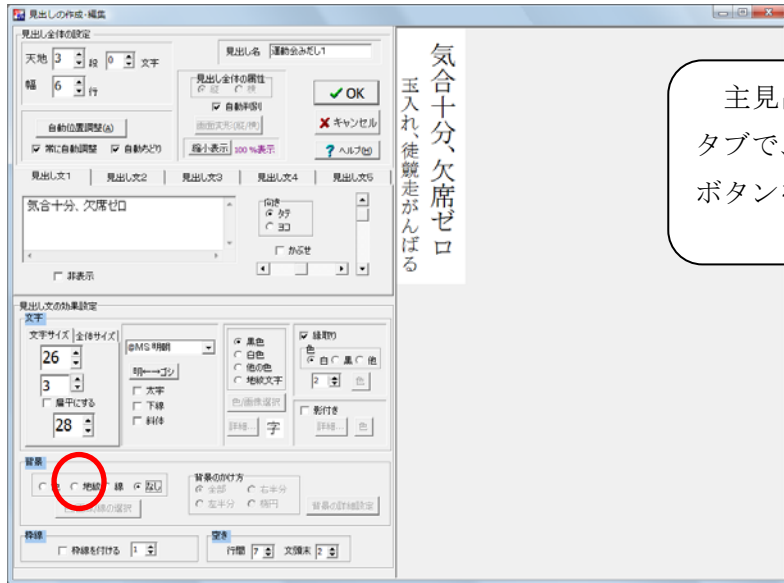
文字サイズも必要に応じて変更します。

<メモ>

主見出しとは記事の内容で一番伝えたい見出しで、大きい文字にします。脇見出しは主見出しを補う見出しで、主見出しより小さな文字にします。主見出しと脇見出しは上下にずらして配置すると、見栄えがいいでしょう。「常に自動調整」ボタンにチェックが入っていると自動的にバランスが調整されます。

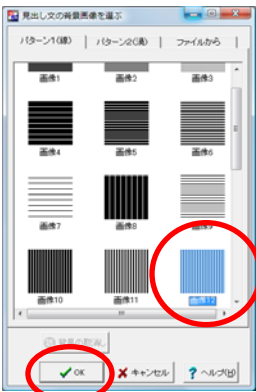
5-2 見出しを地紋にする

先ほど作った見出しの「主見出し」を地紋にしてみましょう。

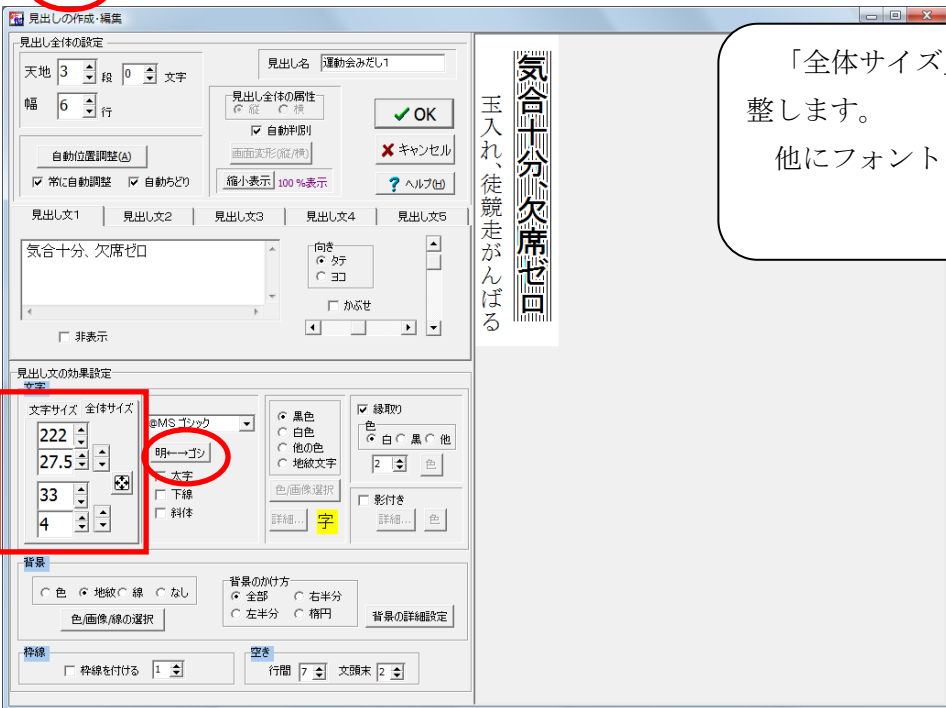


気合十分、欠席ゼロ  
玉入れ、徒競走がんばる

主見出しを作った「見出し文1」タブで、「背景」の「地紋」のラジオボタンを押します。



「色/画像/線の選択」より「地紋」の模様を選びます。  
ここでは「画像12」を選びました。



「全体サイズ」の高さを指定してサイズを調整します。  
他にフォントをゴシックに変更しました。

主見出しが地紋になりました。  
※見出しは「見出し名.Jmd」というファイル名で紙面フォルダに保存されます。

### 5-3 題字を作る

見出しの機能を利用して、題字を作ります。

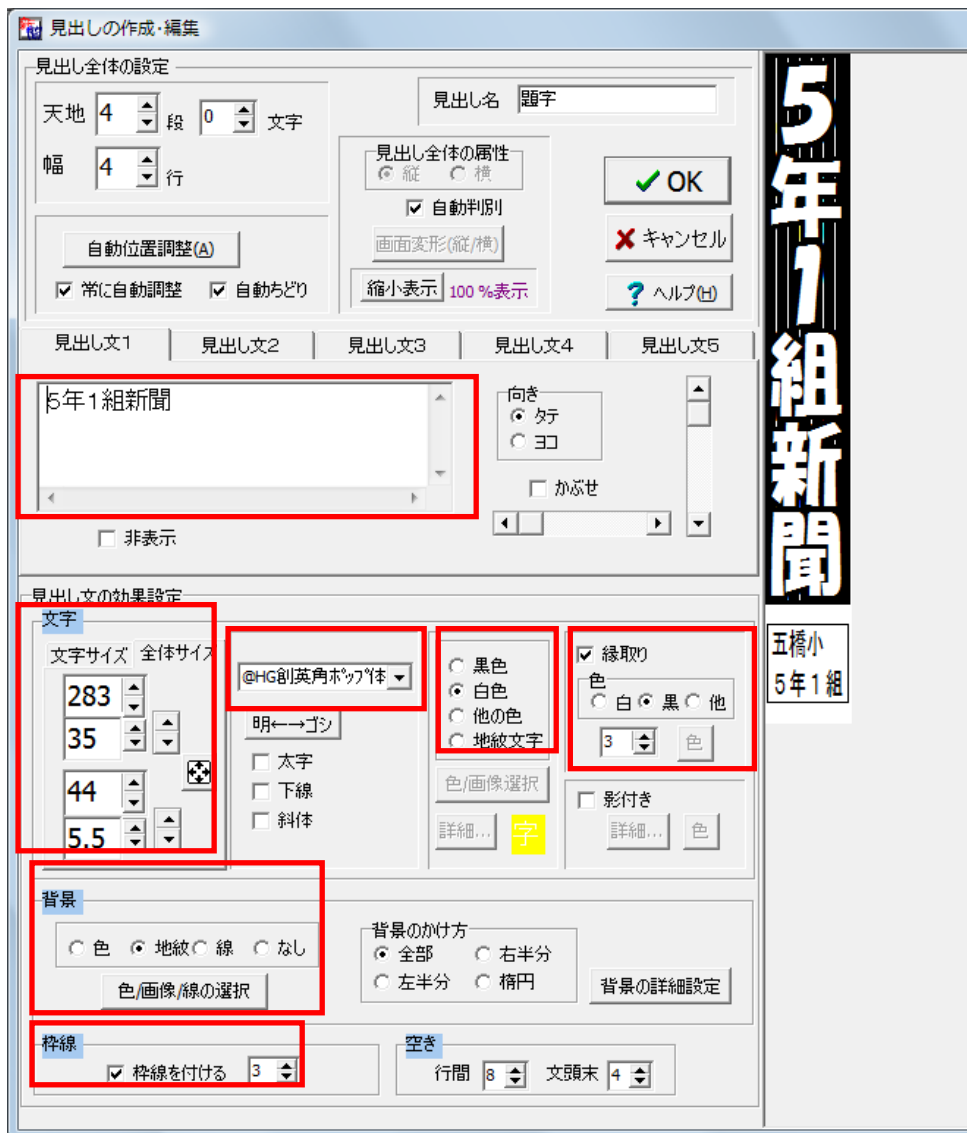


見出しの「作成」ボタンを押します。

<メモ>

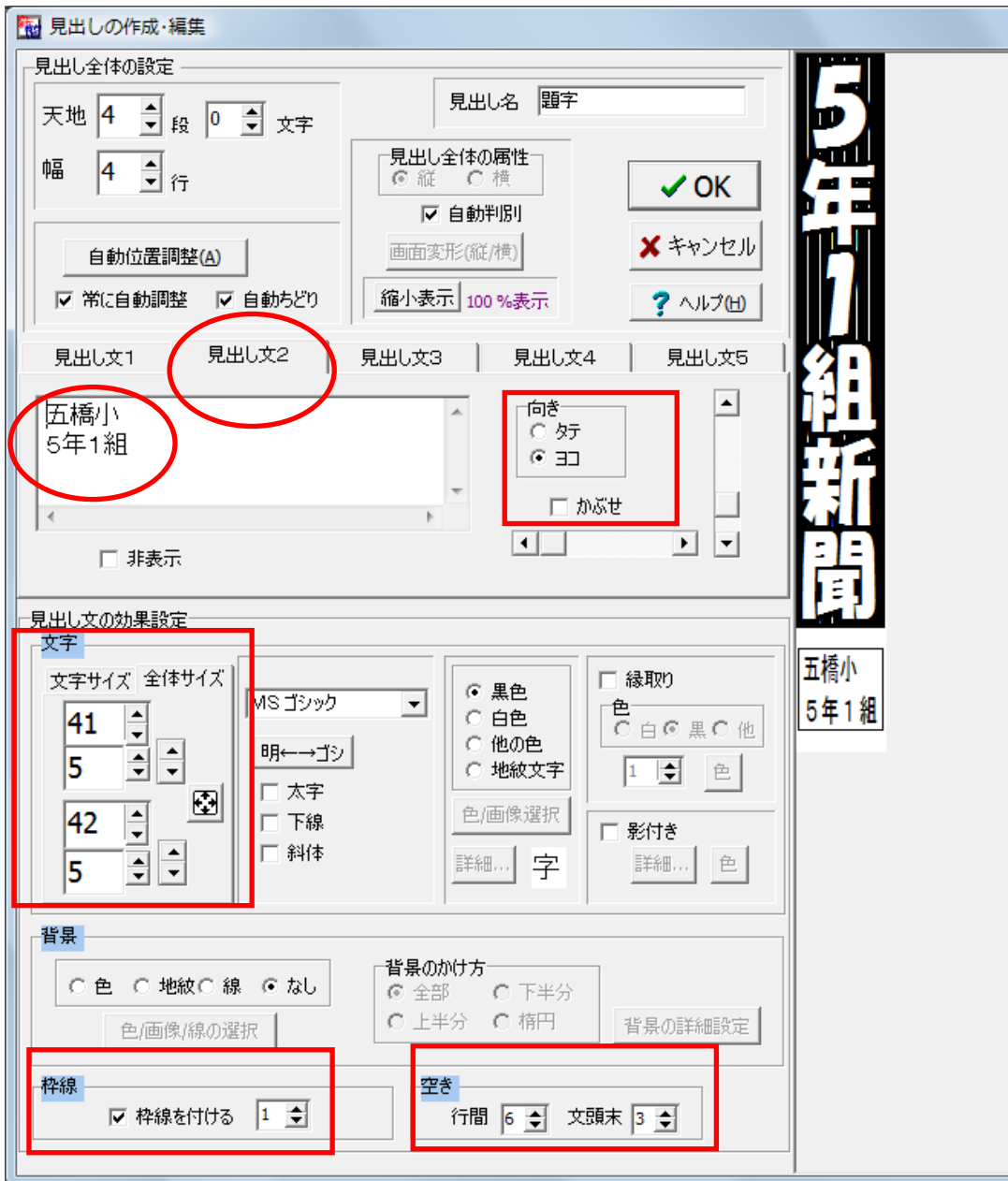
題字には新聞の名前と発行者などを記載します。

「見出し文1」のタブに、新聞の名前「5年1組新聞」と入力しました。



文字の形体をお好みのものに変更します。ここでは、フォント「@HG 創英角ポップ体」、文字の色「白」、縁取り「黒/太さ3」、背景「地紋/画像8」、枠線「枠線を付ける/3」、全体サイズ「高さ35倍、幅5.5倍」にしています。

発行者を入力するため、「見出し文2」にタブを切り替えます。  
「五橋小5年1組」と入力しました。



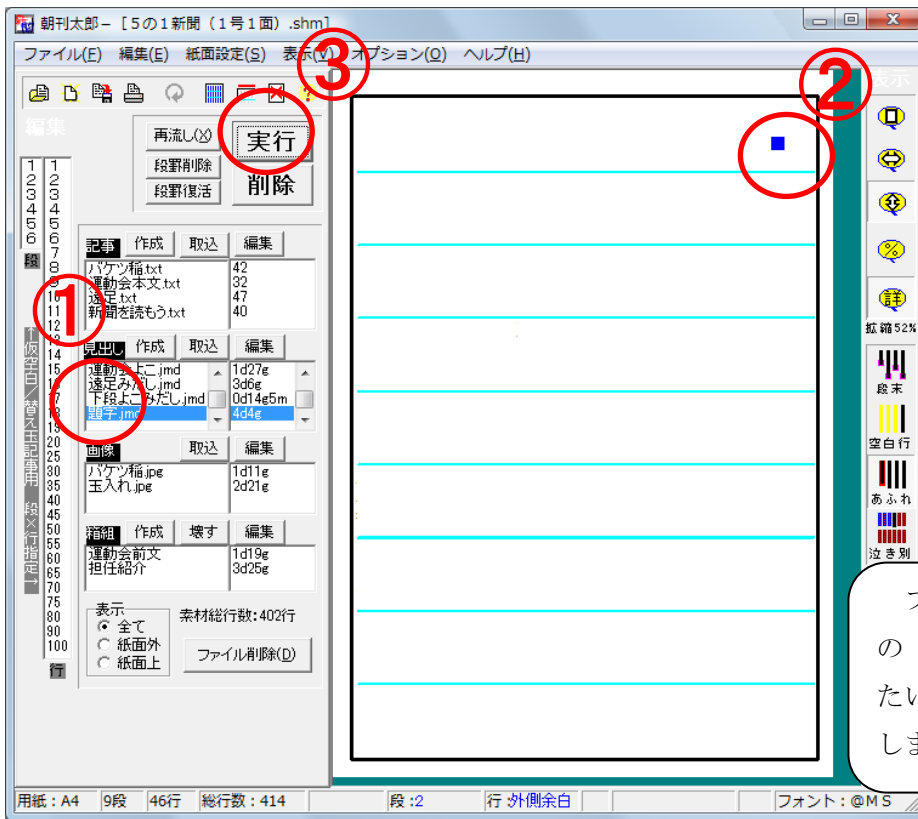
向き「ヨコ」、全体サイズ「高さ5倍、幅5倍」、「枠線を付ける」、文字の空き「行間6、文頭末3」としてバランスを調節しました。



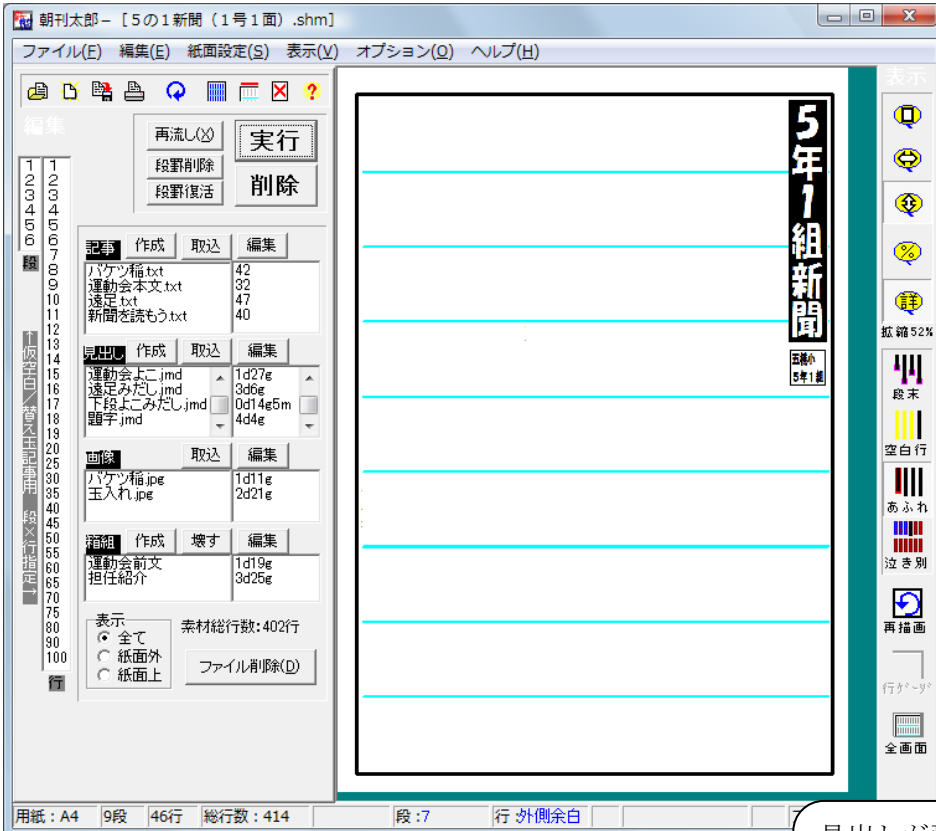
6 大組

6-1 題字を置く

素材がそろったら大組（台紙上での配置）をします。まずは題字を配置してみましょう。



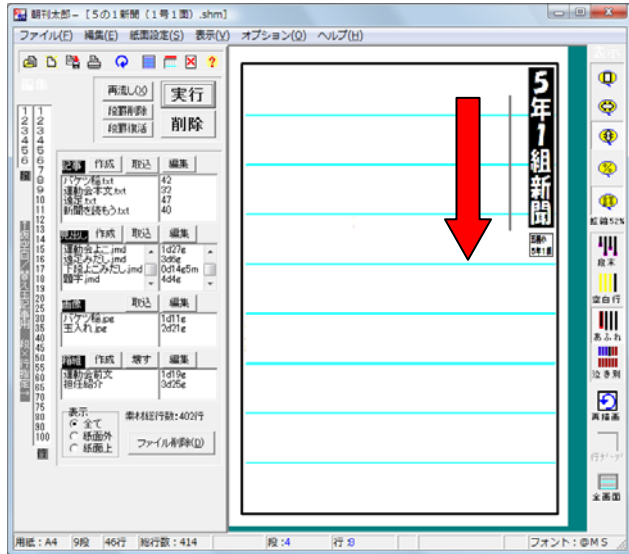
ファイルボックスの「見出し」の中  
の「題字」を選択して、台紙上の置き  
たい場所をクリックして「実行」を押  
します。



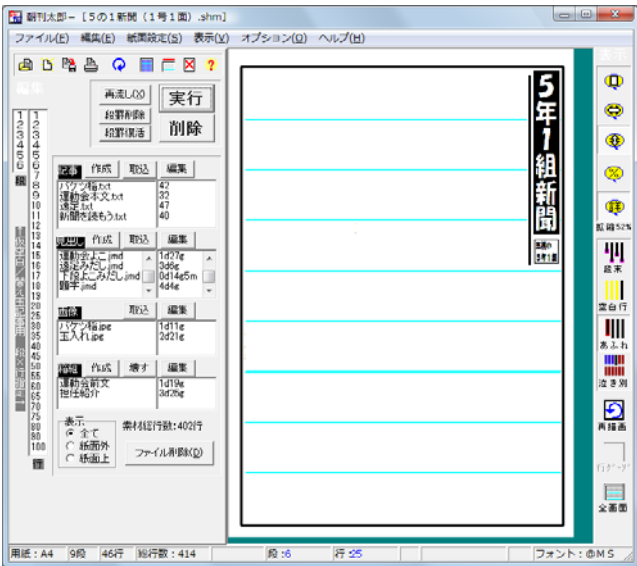
見出しが配置されました。

## 6-2 罫線を引く

題字の左側に罫線を引いてみましょう。

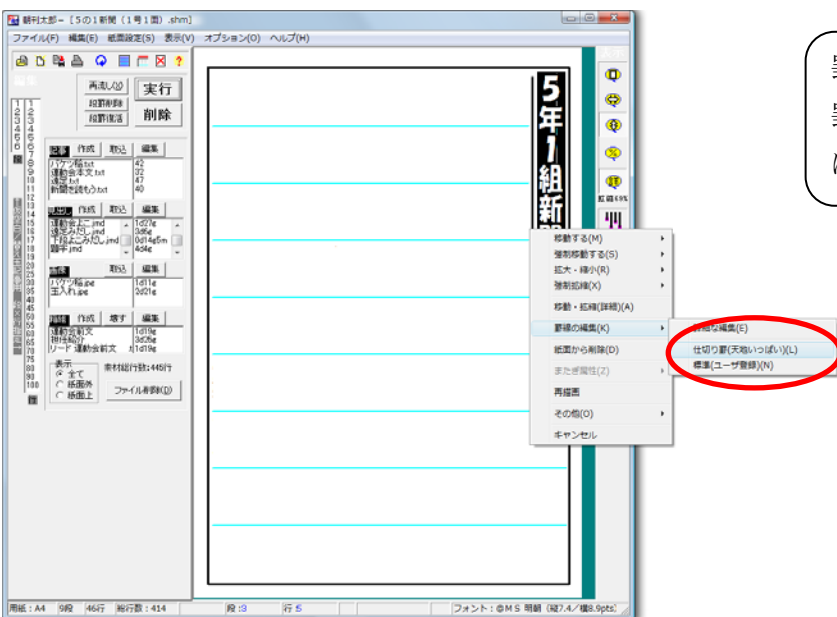


罫線を引きたい位置で、「ctrl」キーを押しながらマウスを縦にドラッグします。



題字の脇に罫線がひかれました。

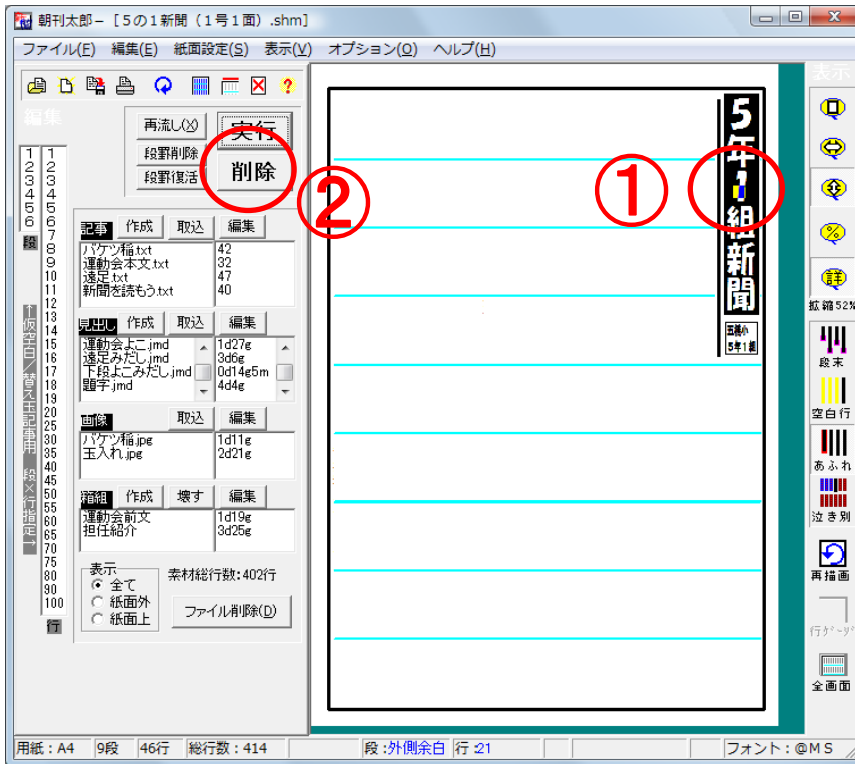
題字の横なので、他の罫線と区別するために、少し長めの罫線にします。



罫線を右クリックして罫線の編集→仕切り罫（天地いっぱい）を選択します。

### 6-3 素材を外す

間違って配置した場合など、紙面から素材を外したい場合は次の操作をします。



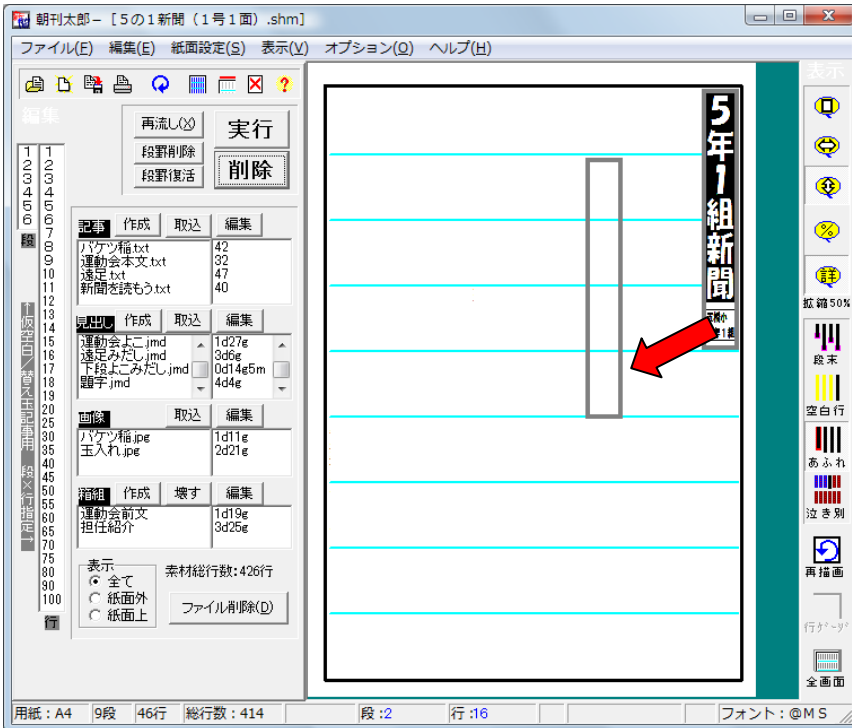
紙面上の外したい素材をクリックして、「削除」ボタンを押します。



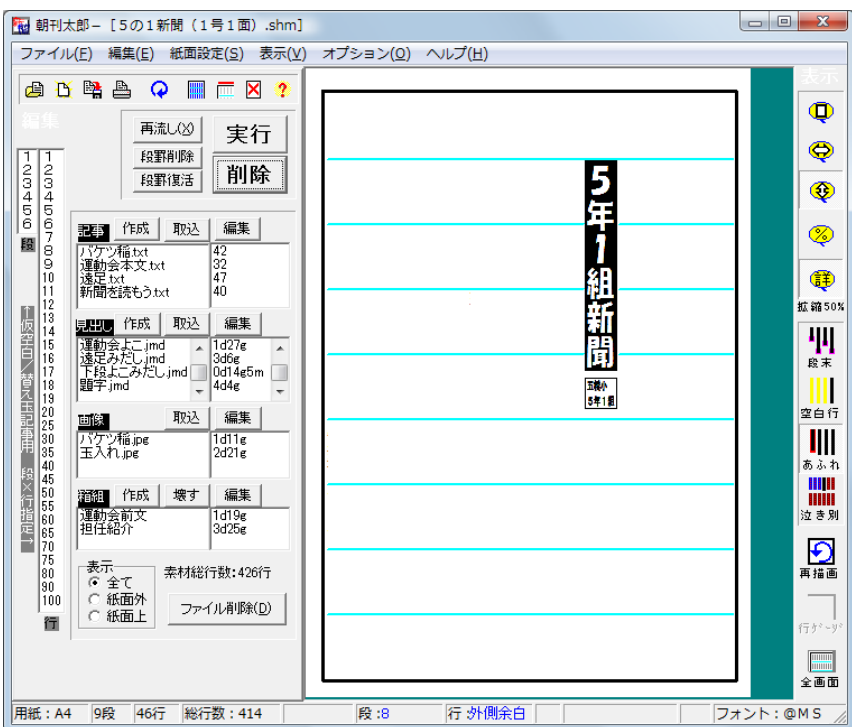
紙面上から削除され、ファイルボックスに戻りました。

## 6-4 移動

一度置いた素材は、紙面上から外さずに移動することができます。



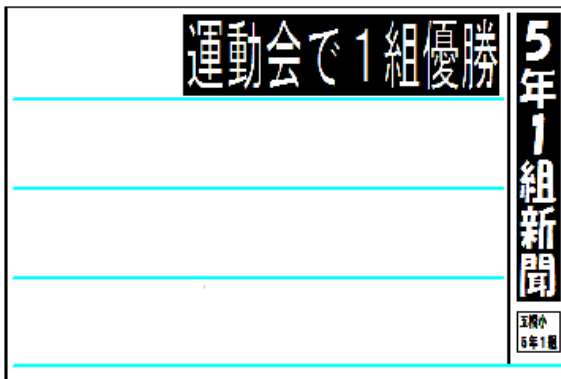
紙面上の移動したい素材をドラッグします。



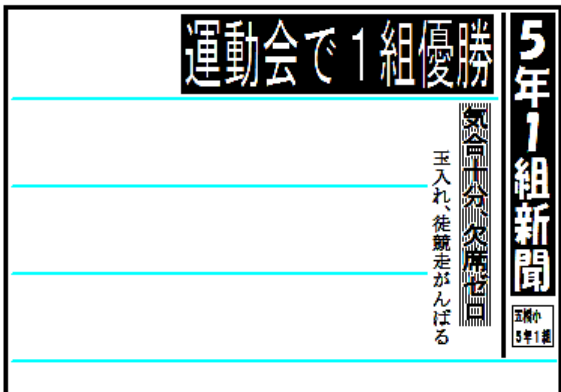
マウスを放すと、その場所に移動します。

6-5 素材を置く（その2）

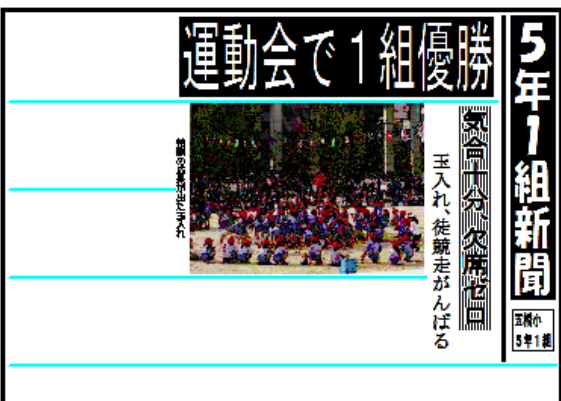
題字を置いた要領で、見出しや写真を配置していきます。



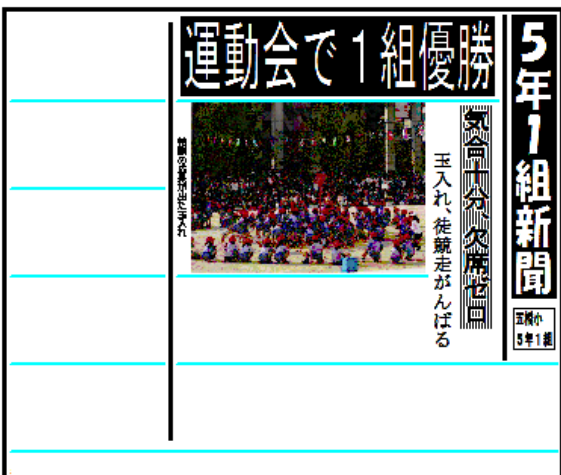
アタマの横見出しを置きます



縦見出しを置きます。



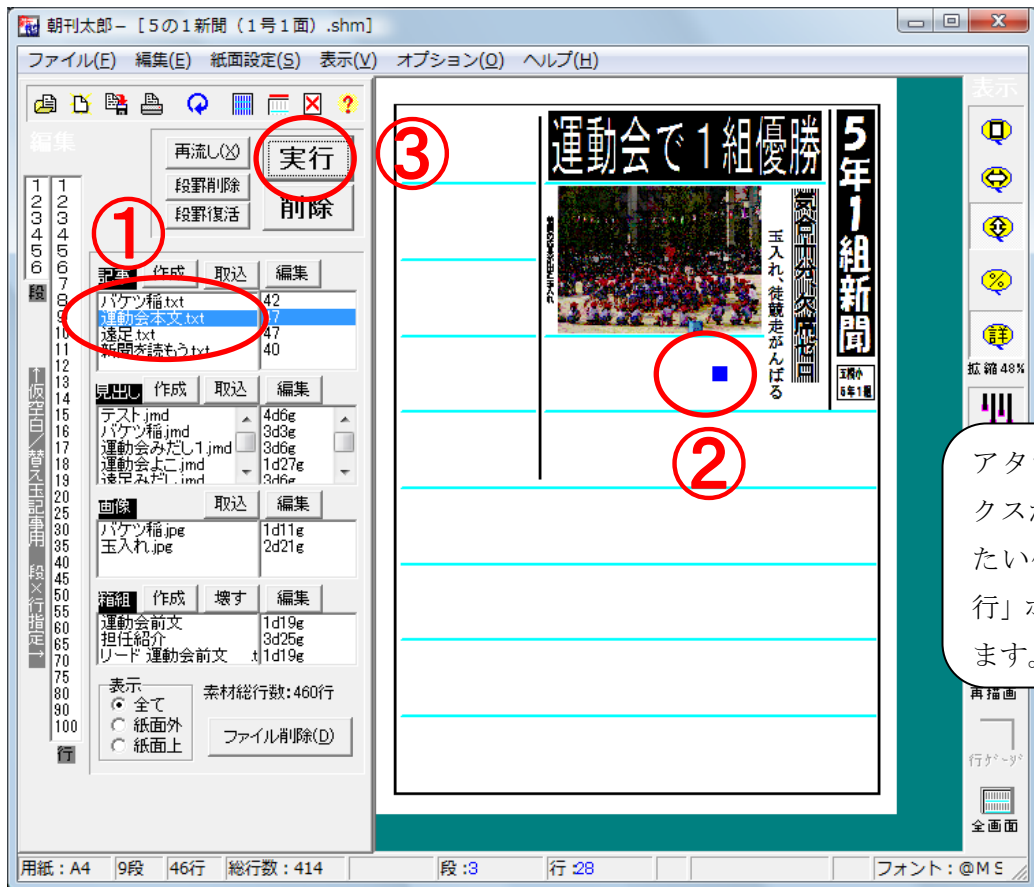
写真を置きます。



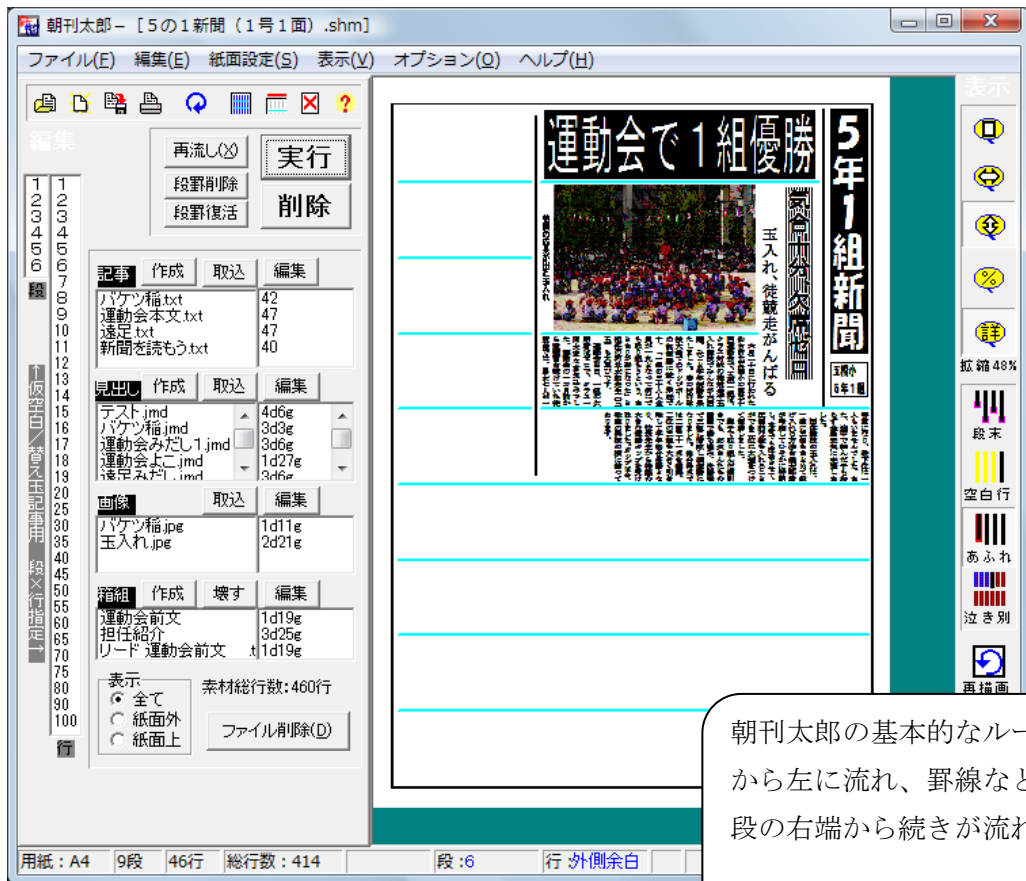
罫線を引きます。

6-6 記事を流す

見出し、写真を置いたら、記事を流します。記事を紙面上に配置することを「流す」と言います。



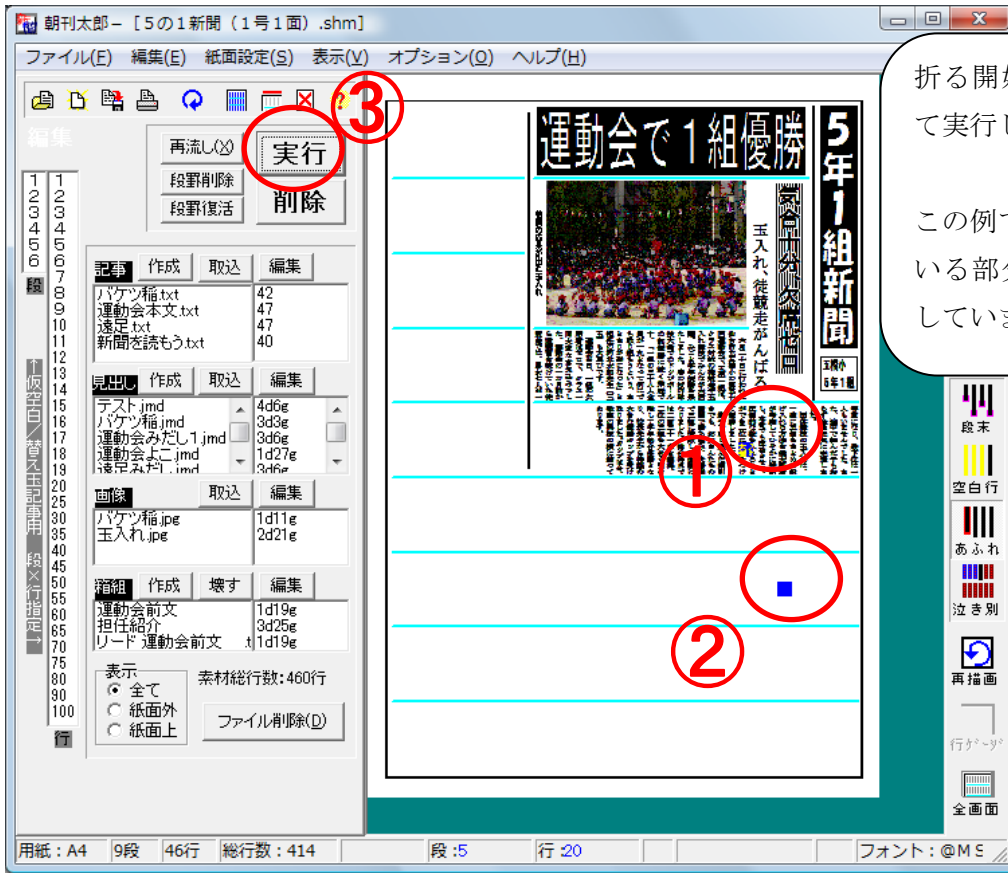
アタマの記事をファイルボックスから選択し、紙面上の流したい位置をクリックして「実行」ボタンを押すと記事が流れます。



朝刊太郎の基本的なルールでは、記事を流すと右から左に流れ、罫線などの障害物にぶつくと次段の右端から続きが流れます。

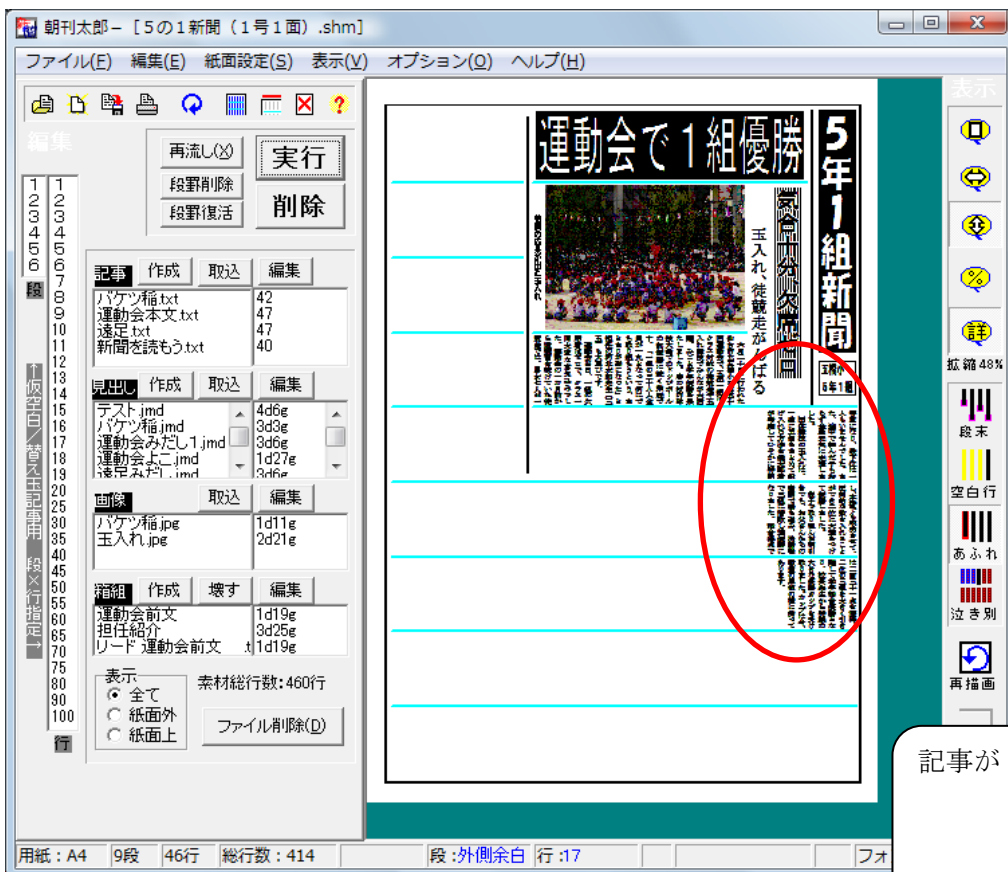
6-7 記事を折る

流れた記事をきれいにレイアウトするため、記事を折ります。「折る」とは新聞独特のレイアウト手法です。朝刊太郎では「たたむ」と呼んでいます。



折る開始段と終了段をクリックして実行します。

この例では、記事の5段目に流れている部分から7段目までを3等分しています。



記事が3段分折られました。

朝刊太郎 - [5の1新聞 (1号1面) .shm]

ファイル(E) 編集(E) 紙面設定(S) 表示(V) オプション(O) ヘルプ(H)

編集

再流し(X) 実行  
段罫削除 削除  
段罫復活

記事 作成 取込 編集

バケツ箱.txt	42
運動会本文.txt	47
遠足.txt	47
新聞を読もう.txt	40

見出し 作成 取込 編集

テスト.jmd	4d6g
バケツ箱.jmd	3d3g
運動会みだし1.jmd	3d6g
運動会上2.jmd	1d27g
遠足みだし.jmd	3d6g

画像 取込 編集

バケツ箱.jpg	1d11g
玉入れ.jpg	2d21g

箱組 作成 壊す 編集

運動会前文	1d19g
担任紹介	3d25g
リード 運動会前文	t1d19g

表示 素材総行数: 460行

全て  
 紙面外  
 紙面上

ファイル削除(D)

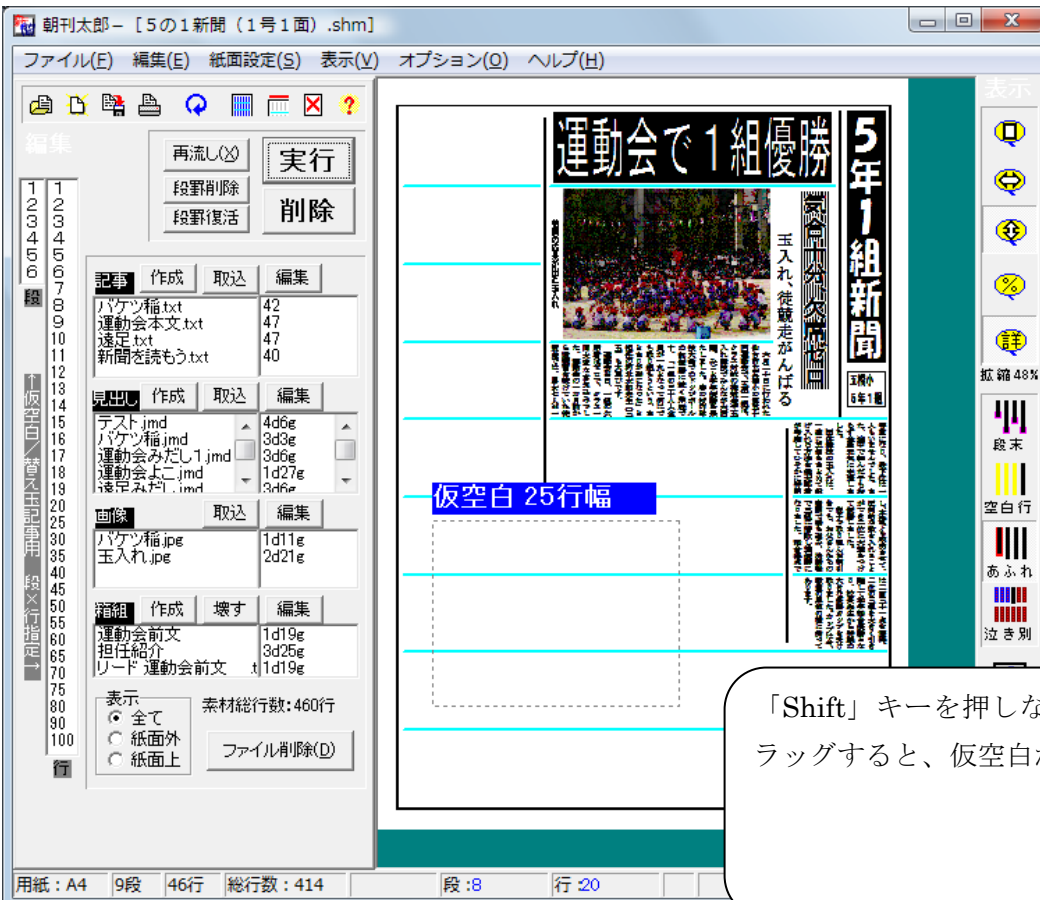
用紙: A4 9段 46行 総行数: 414 段: 7 行: 11

横に罫線を引いて、  
次の記事の見出しをレイアウトで  
できるようにします。

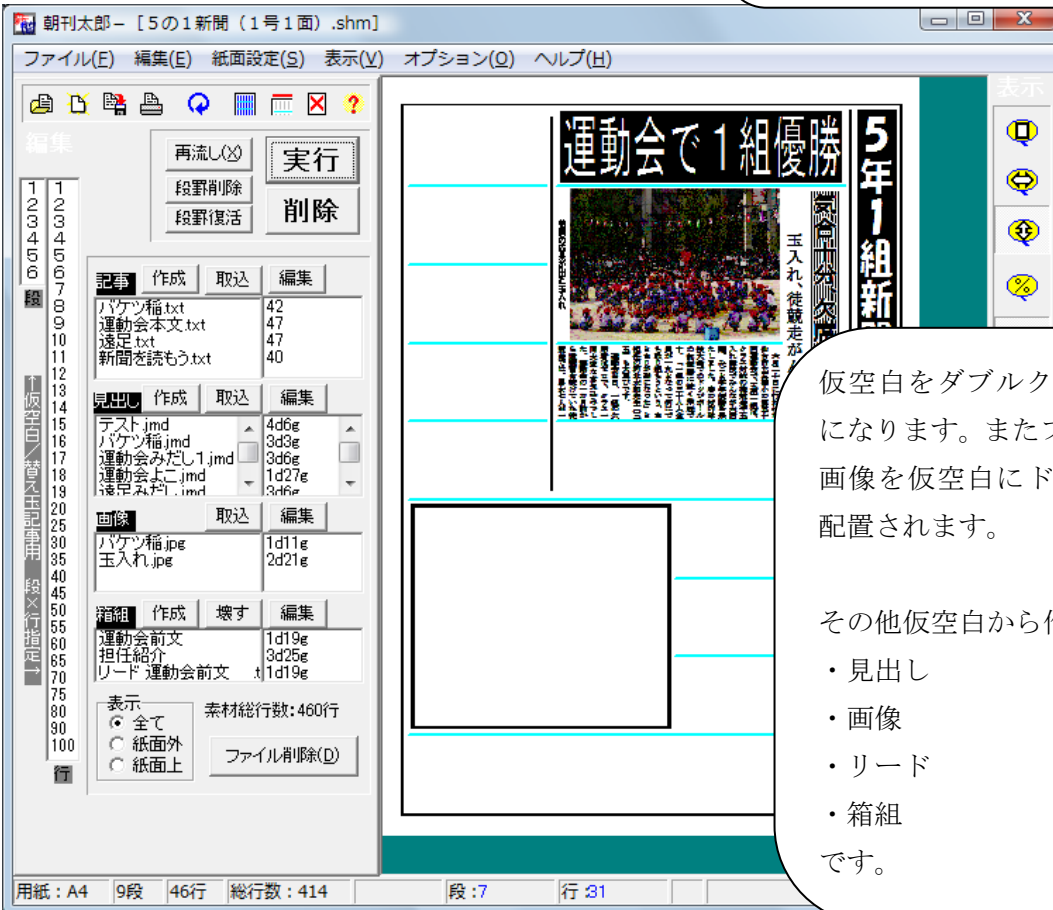


6-8 便利な仮空白

いろいろな用途で使える仮空白の説明です。とりあえずのスペースを取っておき、後から見出しや箱組み等にすることができます。



「Shift」キーを押しながらマウスで矩形にドラッグすると、仮空白が作られます。



仮空白をダブルクリックすると見出しになります。またファイルボックス上の画像を仮空白にドラッグすると画像が配置されます。

その他仮空白から作成できるものは、

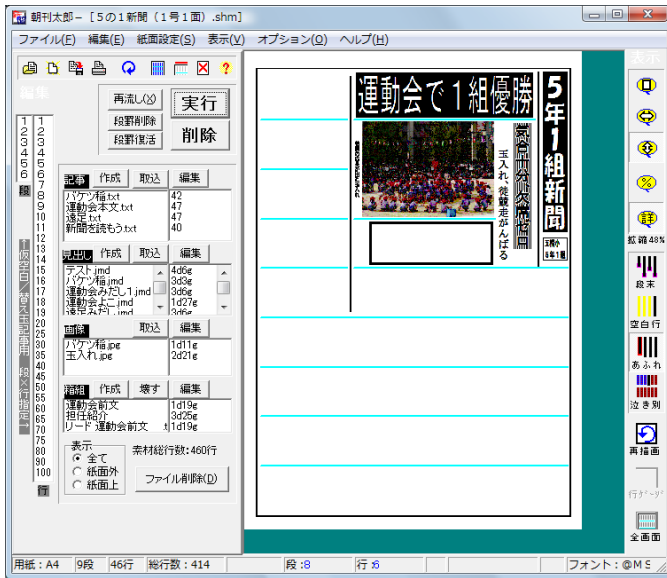
- ・見出し
- ・画像
- ・リード
- ・箱組

です。

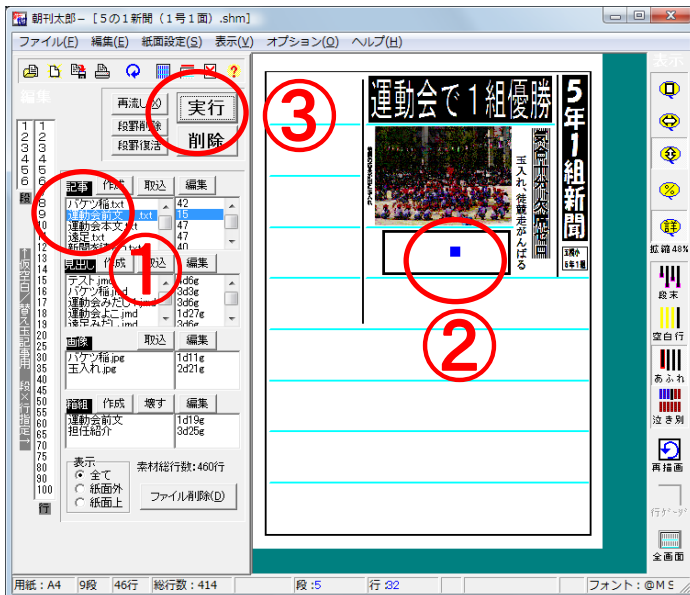
7 リード

7-1 リードを作る

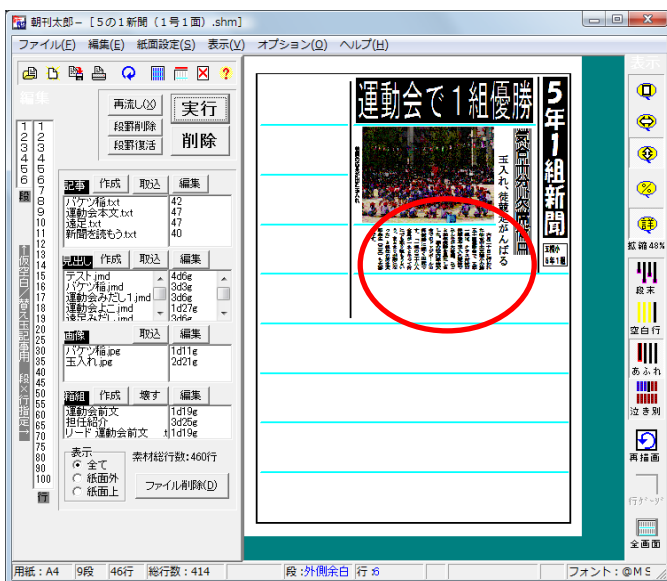
朝刊太郎にはリードを作る機能があります。リードとは記事の概要が書かれている文章で、記事の1段落目に当たります。前文とも呼ばれます。



リードを作りたい場所に、仮空白を作ります。



リードにする記事を選んで、作成した仮空白をクリックし「実行」を押します。



リードができました。

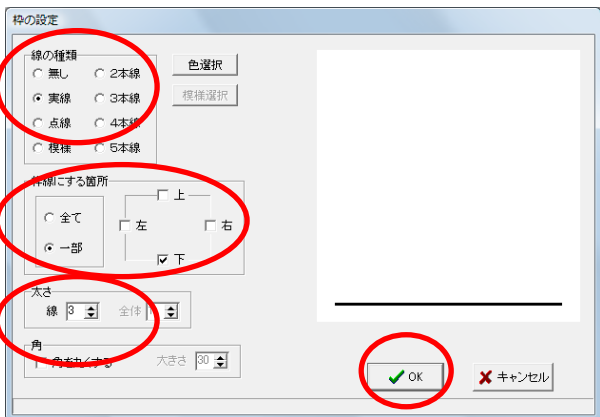
7-2 リードの編集

リードを編集してみましょう。

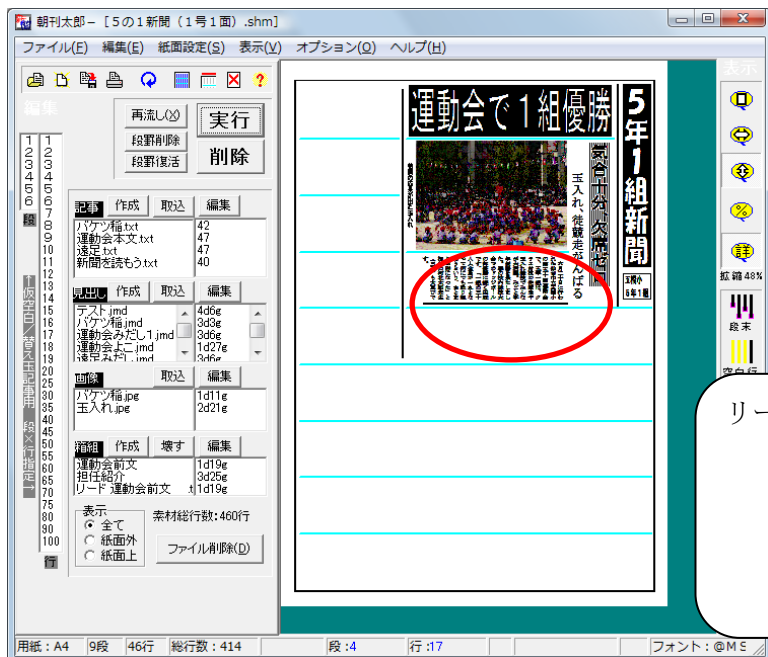


リードを右クリックして、「リードの編集」を選択すると、罫線や段組などの装飾ができます。

ここでは「罫線の編集」を選択します。



線の種類「実線」、枠線にする箇所「一部／下」、太さ「3」にしました。

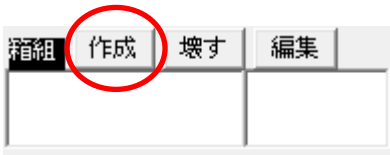


リードが編集されました。

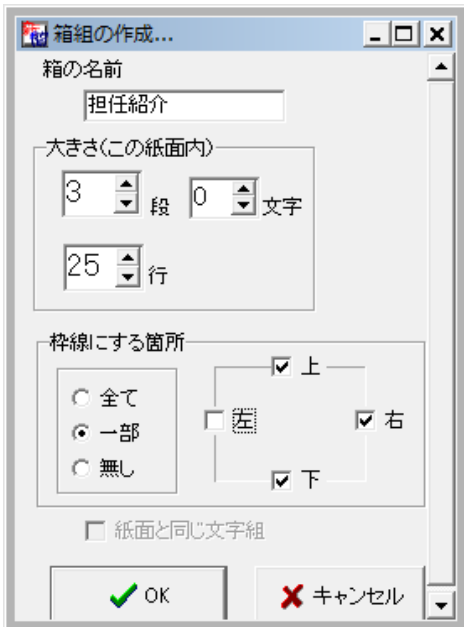
## 8 箱組

### 8-1 箱組を作る

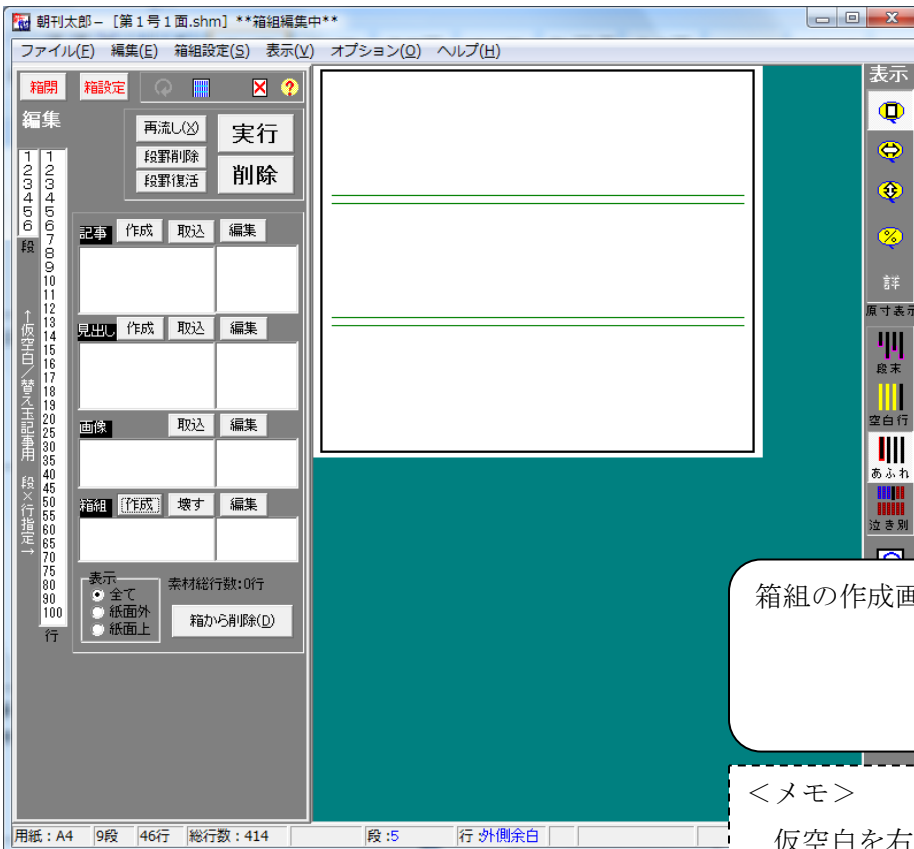
箱組（囲み）を作る方法を説明します。字詰め変更した組み物を配置することで、紙面にアクセントを付けることができます。



箱組の「作成」ボタンを押します。



箱組の名前、サイズ、罫線の巻き方を決めます。



箱組の作成画面に移ります。

<メモ>

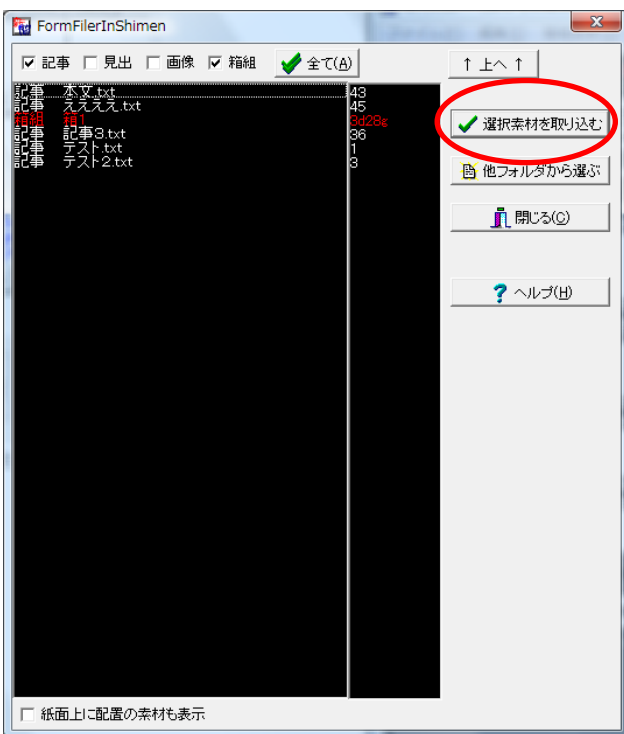
仮空白を右クリックして「箱組にする」からでも、箱組を作成できます。

## 8-2 箱組へ素材の取込み

箱組にする素材を取り込みます。



「取得」ボタンで箱組内のファイルボックスに素材を集めます。



「取得」ボタンを押すと左の取込み画面になり、大組上や他フォルダにある素材を取り込むことができます。

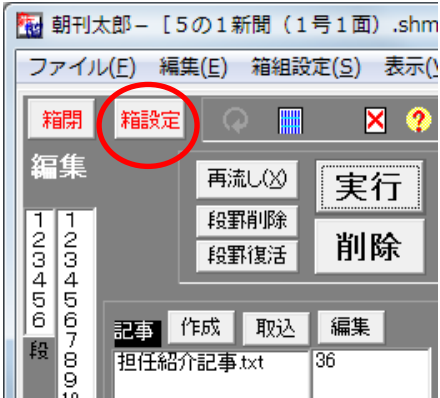


記事、見出し、画像を箱組内のファイルボックスに取り込みました。

取り込まずに、「作成」ボタンで記事、見出し、箱組の作成をすることもできます。

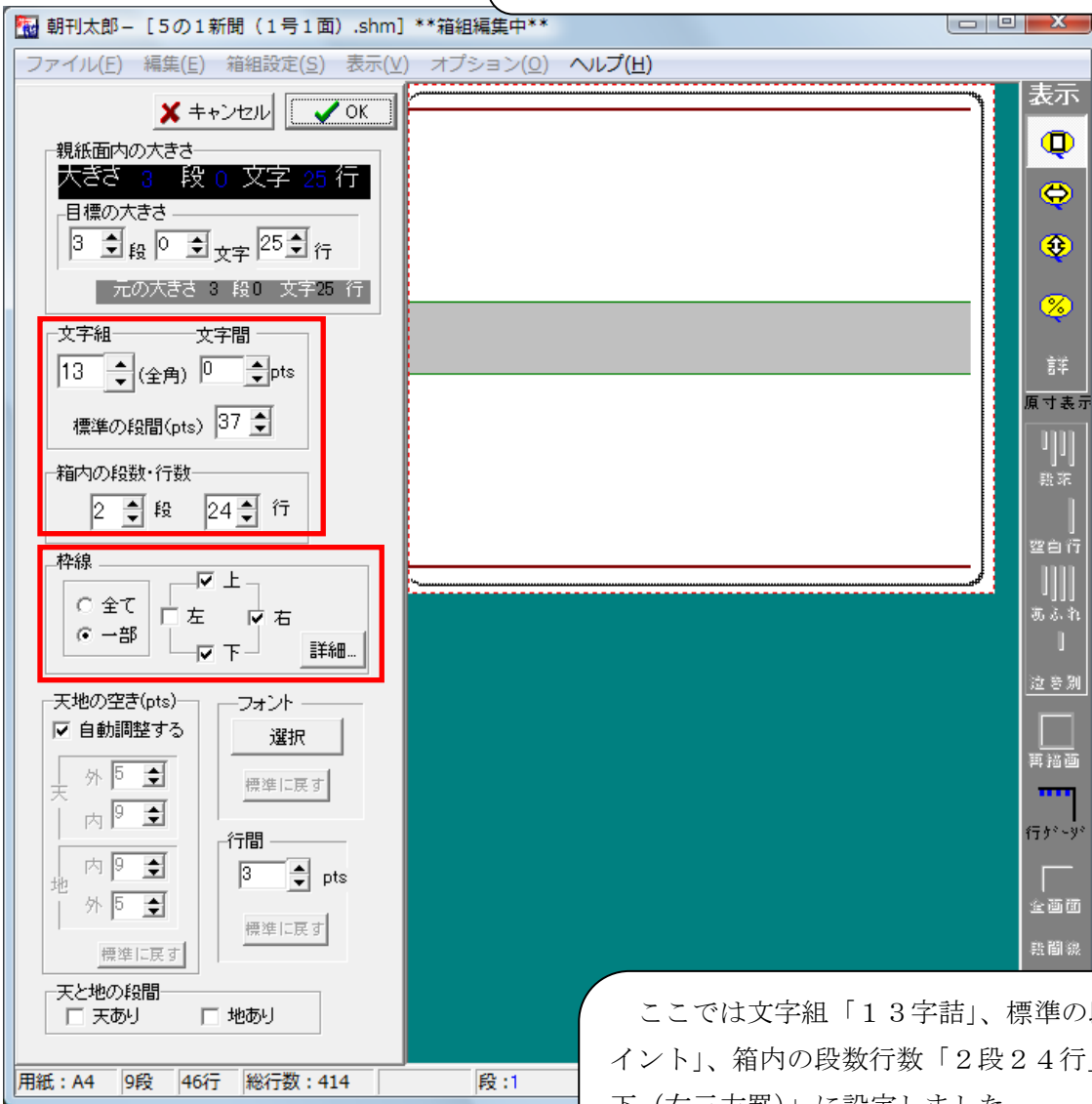
### 8-3 箱の設定

箱内の字詰めや、段数、行数を設定します。

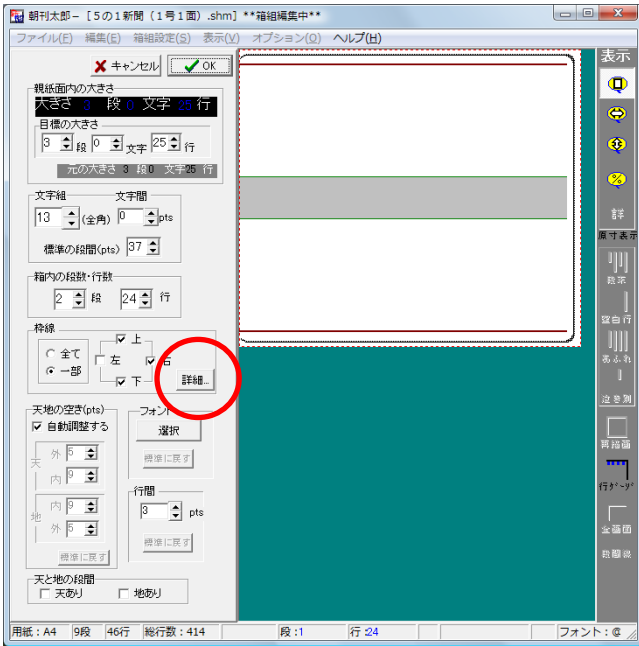


「箱設定」ボタンを押します。

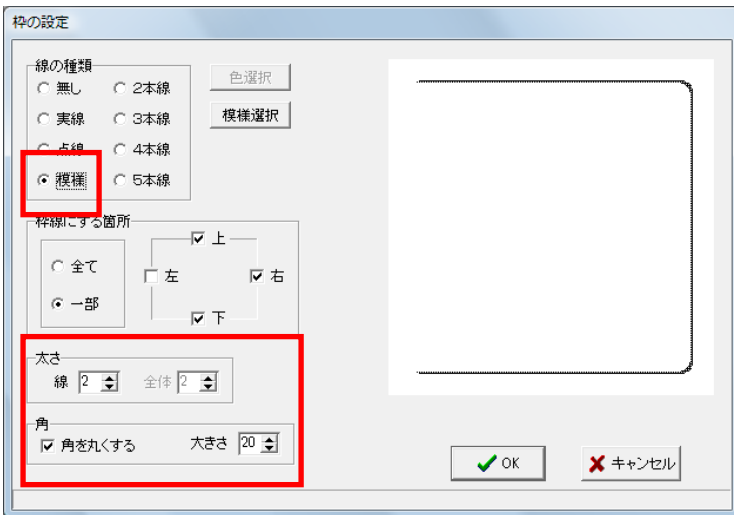
箱設定画面が起動します。  
この画面で箱内の字詰めや、段数、行数を決めます。



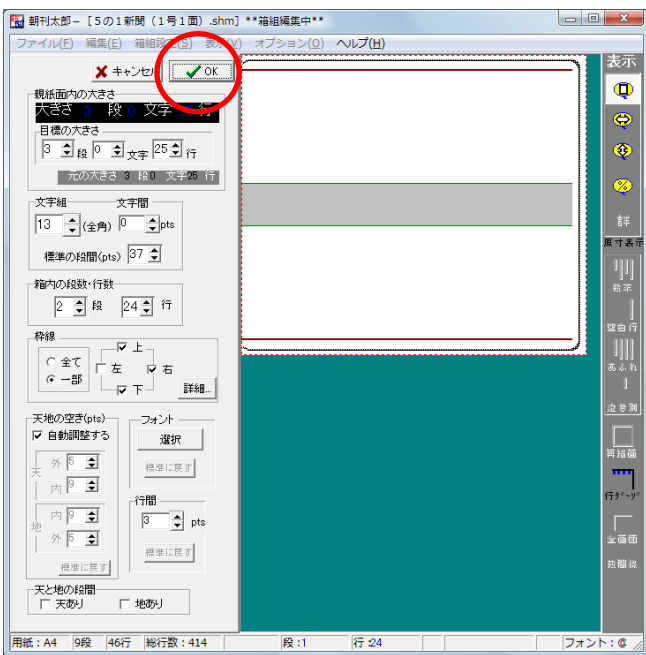
ここでは文字組「13字詰」、標準の段間「37ポイント」、箱内の段数行数「2段24行」、罫線「上右下(右三方罫)」に設定しました。



罫線の詳細ボタンを押すと、線種など選択できます。



線の種類「模様」を選択して、太さを「2ポイント」、「角を丸く」してみました。

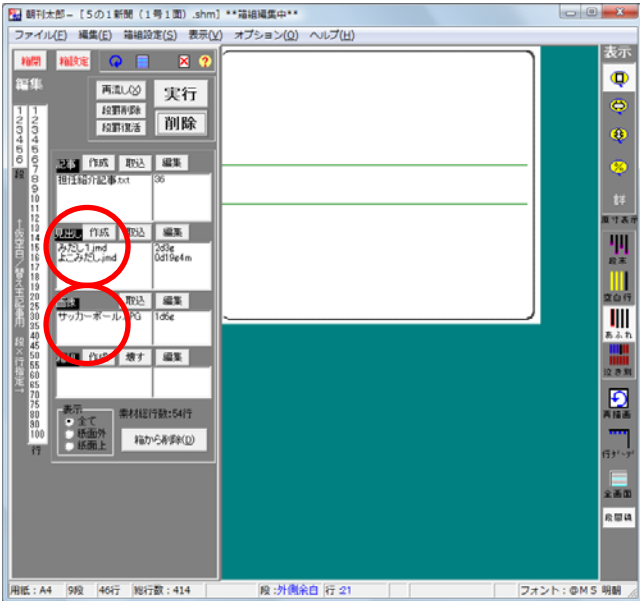


OK を押すと箱設定を終了します。

8-4 箱組で素材を配置する

箱組に素材を配置します。

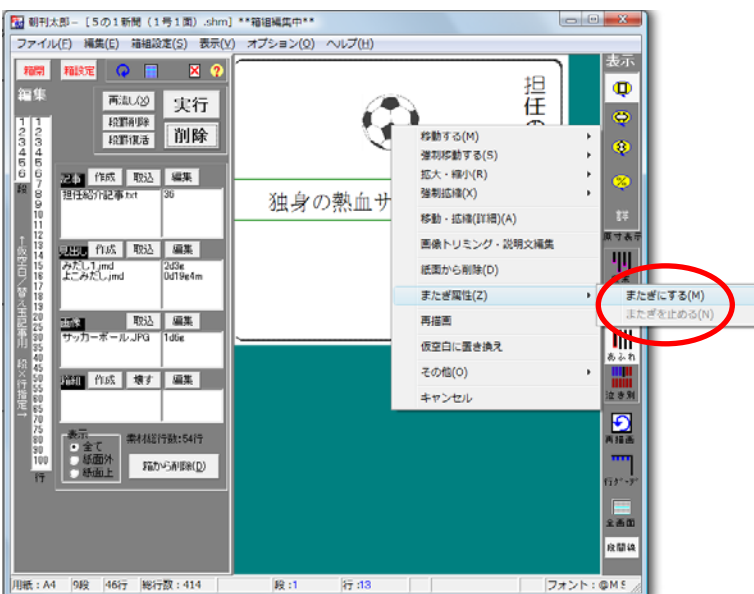
大組と同じ要領で、素材選択して配置していきます。



縦見出しと横見出しを配置します。  
この例では横見出しを段間へ配置しています。



サッカーボールの画像をまたいで記事  
を流したいので、画像を右クリック  
して「またぎ属性」を変更しておきま  
す。



またぎ属性とは素材をまたいで記事  
を流すかどうかの設定です。画像や見  
出しを右クリックして設定します。





記事を流します。

<メモ>

サッカーボールの画像をまたぎにしない場合、このように記事が流れてしまいます。



横見出しの左右の配置バランスなどを微調整して、箱組の完成です。

9 仕上げ

9-1 素材の配置 (その3)

残りの素材を配置して紙面を完成させます。



<メモ>

記事が紙面上に収まらない場合、流した記事の文末が赤色表示されます。これをオーバーフローと言います。オーバーフローした場合は記事の行数を減らしたり、見出しや写真のサイズを小さくしたりして調整します。



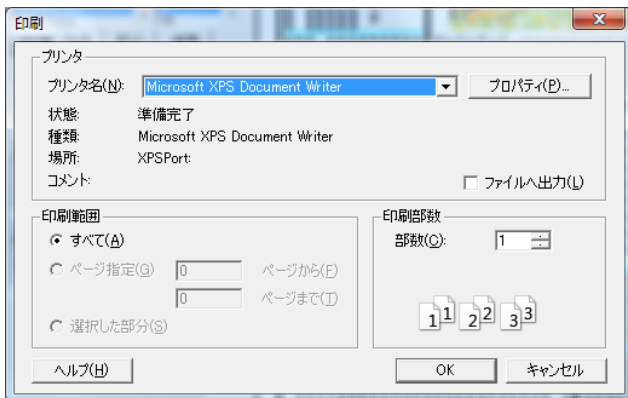
9-2 段罫を削除する

不要な段罫（段間に引いてある罫）を削除します。



9-3 印刷する

紙面が完成したら印刷しましょう。



印刷アイコンを押すと、プリンタの選択や印刷部数を選択する画面が表示されます。  
まずは1枚印刷して、校閲しましょう。

<メモ>  
プリンタが拡大や縮小に対応している場合、プリンタのプロパティから用紙サイズを指定することもできます。

校閲をして間違いがなければ完成です。おつかれさまでした。

以上